

モノ書き時に思いを込めることの重要性

梅田 富雄（化工会）

昨夜のテレビは私にとってモノ書きの心構えに関連した内容であったと思い、トピックスを紹介しながら本稿を書くことにしました。

最近 DX(Digital Transformation)がデジタル変革を意味する言葉として、しばしば見聞きするようになりましたが、なぜ DT と言わずに DX というのか、昨日の朝日新聞の「ことばサプリ」欄に「未知数Xに情報革新のヒント」と題してやや詳しい内容が紹介されていました。詳しいことを知らずに DX 関連の原稿を書いていたのですが、こんご納得して使えるようになりました。

Transformation の trans はラテン語由来で 超えていく を意味し、英語の cross に相当する、across は十字（架）を意味する cross に a をつけたもので、その十字をかたどる文字が X です。つまり、trans から across, cross そして X という連想から、何時しか trans を X と表記する慣習ができたということです。一種の言葉遊びが隠されていたわけです。

通常英語の単語には複数の意味があることはご存じのとおりですが、例えば昨夜の再放送スイッチインタビューでそれぞれの専門であるクラシック音楽の指揮と元音楽家で今は日本酒の蔵元で酒造りをされているパーボ・ヤルビ と かの香織の対談で spirits が話題になっていました。アルコールと精神の 2 つの意味が極めて深い関係にあるとの指摘がされていました。両者の共感した点は自分の思いを つくる に込めることの大切さでした。

原稿を書くときに、自分の思いを「つくる」に込める点は共通していることを確認し、キーワードになる言葉を適切に選び、アイデアからコンセプトそしてデザインにいたる一貫した流れが最終的な出来栄えに繋がることを重視すること、どのような自分思いを込めて、だれのため、何のためにどのような原稿を書くのか、もっと意識することを心掛けるようにしようと思った次第です。（2020年11月15日）